

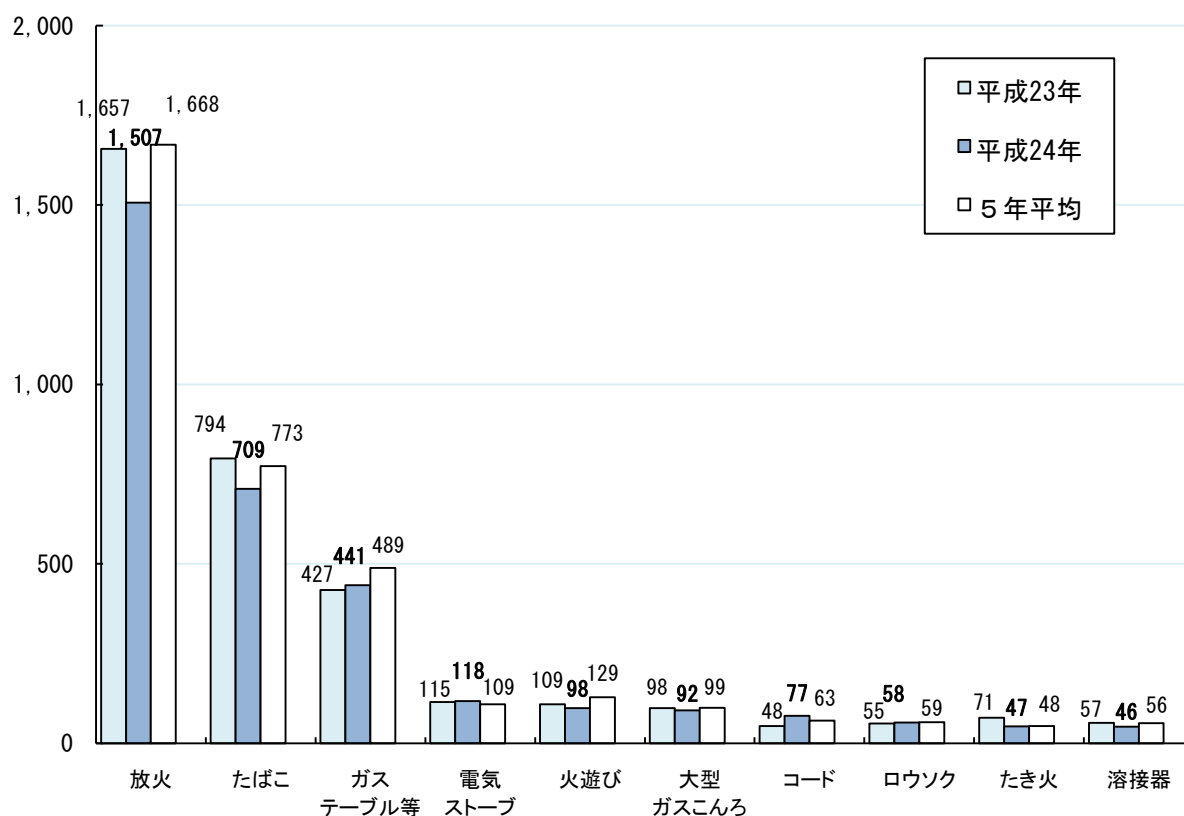
3 主な出火原因別の傾向 ～放火、たばこが最近5年間で最少～

(1) 主な出火原因別発生状況

平成24年中の火災の主な出火原因を図1-3-1で見ると、最も多いのが「放火（疑いを含む、以下同じ。）」の1,507件で、前年と比べて150件減少し、最近5年平均（平成24年を含む5年間の平均、以下同じ。）と比べても161件少なく、最近5年間では最も少ない発生件数となりました。平成24年の全火災件数（管外からの延焼火災1件を除く。）に占める放火火災の割合は29.6%で、前年の31.0%と比べて1.4ポイント減少し、昭和59年以来の20%台となりましたが、依然3割近くを占めています。

「放火」の中で、連続放火と思われる火災（同一日内とその翌日までに同一地域に5件以上発生した火災、以下「連続放火火災」という。）は11回で、前年と比べて6回増加しました。このなかで最も件数が多かったのは、11月に三鷹市、武蔵野市にかけて発生した連続20件の放火火災でした。

（件） 図1-3-1 主な出火原因別の火災件数



出火原因の第2位から第5位までをみると、「たばこ」、「ガステーブル等」、「電気ストーブ」、「火遊び」の順で発生しています。「たばこ」は709件で前年と比べて85件減少し、最近5年間で最も少ない発生件数となりました。「ガステーブル等」は441件で、前年と比べて14件増加しましたが、最近5年平均と比べると48件減少しています。「電気ストーブ」は前年と比べて3件増加しており、最近5年は増加傾向で推移しています。

第6位以下の主な出火原因をみると、前年と比べて増加しているのは「コード」と「ロウソク」で、「コード」は29件、「ロウソク」は3件増加しています。

第10位以下をみるとほとんど減少しており、「ライター」が24件減少の41件、「電気こんろ」が8件減少の42件、「蛍光灯」が8件減少の37件などとなっています。

(2) 各設備機器の火災状況

電気、ガス、石油の各設備機器別の火災状況（放火、火遊び、車両から出火した火災を除く、以下同じ。）をみると、平成24年中の電気設備機器から出火した火災は1,109件で、前年と比べて58件増加し、最近5年間で最も多く発生しています。全火災（管外からの延焼火災1件を除く。以下同じ。）に占める電気設備機器から出火した火災の割合は21.8%で、前年と比べて2.1ポイント増加して最近5年間では最も高い割合となり、2割を超えました。

平成24年中のガス設備機器から出火した火災は646件、全火災に占める割合は12.7%で、前年と比べて0.6ポイント増加していますが、最近5年間の発生件数は減少傾向で推移しています。同じく、石油設備機器から出火した火災は44件、全火災に占める割合は0.9%で、最近5年間は発生件数、割合ともほぼ横ばいで推移しています。

表 1-3-1 各設備機器の火災状況（最近5年間）

年 別	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	5 年 平均	前年 比較	5 年平均 比較
全 火 災 件 数	5,762	5,598	5,086	5,340	5,088	5,375	▼252	▼287
電 気 設 備 機 器 火 災	1,074	1,004	997	1,051	1,109	1,047	58	62
電気設備機器割合(%)	18.6	17.9	19.6	19.7	21.8	19.5	2.1	2.3
ガ ス 設 備 機 器 火 災	824	769	668	647	646	711	▼1	▼65
ガス設備機器割合(%)	14.3	13.7	13.1	12.1	12.7	13.2	0.6	▼0.5
石 油 設 備 機 器 火 災	56	58	30	47	44	47	▼3	▼3
石油設備機器割合(%)	1.0	1.0	0.6	0.9	0.9	0.9	-	-
放 火 火 災	1,809	1,835	1,534	1,657	1,507	1,668	▼150	▼161
放 火 割 合 (%)	31.4	32.8	30.2	31.0	29.6	31.0	▼1.4	▼1.4

注 1 各設備機器の火災件数は、放火、火遊び、車両からの出火を除いています。

2 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

3 比較欄は前年及び5年平均との増減を示したもので、▼印は減少を示しています。

